

多様な市民が協働して創作する市民参加型パフォーマンスプロジェクト「スロームーブメント」が

次の展開を見せるショーケースとフォーラムを開催

SLOW MOVEMENT Next Stage! ショーケース&フォーラム

日時：2017年2月12日（日）14:00～17:30

会場：スパイラルホール（スパイラル 3F）



SLOW MOVEMENT 六本木アートナイト（2016年10月22日実施）スペシャルバージョン

スロームーブメント実行委員会（スパイラル／株式会社ワコールアートセンター、特定非営利活動法人スローレーベル）は、2月12日（日）に「SLOW MOVEMENT Next Stage! ショーケース&フォーラム」をスパイラルホール（スパイラル 3F）にて開催いたします。

2020年に向け注目を集める障害者の舞台芸術分野。スロームーブメント実行委員会は、2015年より年齢、性別、国籍、障害の有無を越えた多様な市民が協働して創作する市民参加型パフォーマンスプロジェクト「スロームーブメント」を展開するとともに、障害者パフォーマーを支える人材の育成など、環境の整備も行ってきました。今回「SLOW MOVEMENT Next Stage! ショーケース&フォーラム」では、「スロームーブメント」の今までの活動を踏まえ、次の展開を提示します。

ショーケースでは、多様な体が織りなす現代サーカス「Wonder of View」と響のダンサー出演作品「聞こえなくても、聞こえても『ダンス劇』」の2作品を少数精鋭のパフォーマーによって上演します。フォーラムでは、栗栖良依（SLOW LABEL ディレクター）、柴田翔平（Stopgap Dance Company プロデューサー）、菅野薫（株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo グループ・クリエイティブ・ディレクター／クリエイティブ・テクノロジスト）、鈴木京子（国際障害者交流センター ビッグ・アイ事業プロデューサー）が登壇し、2020年に向けて障害者の舞台芸術について考えます。

この機会に、ぜひご取材・ご掲載の検討をお願いいたします。

取材・掲載に関するお問い合わせ：スパイラル／株式会社ワコールアートセンター 広報部 瀧本
TEL 03-3498-5605 E-mail press@spiral.co.jp

イベントに関するお問い合わせ：スロームーブメント実行委員会 塚原
TEL 070-5453-7154 E-mail move@slowlabel.info FAX 045-345-4957

プログラム

ショーケース 総合演出：栗栖良依

少数精鋭のパフォーマーたちと実験的な作品づくりに挑戦します。

1. 「Wonder of View」

多様な体が織りなす現代サーカス

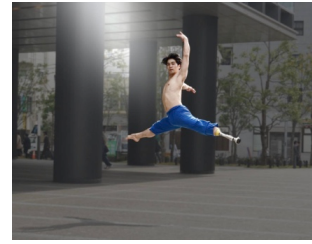
演出：金井ケイスケ

出演：大前光市、かんばらけんた、定行夏海、
高津会、森田かずよ、吉田亜希

2. 「聞こえなくても、聞こえても『ダンス劇』」

演出：熊谷拓明

出演：鹿子澤拳、南雲麻衣



大前光市



かんばらけんた

フォーラム（手話通訳付き）

東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の舞台芸術を考えるフォーラムと共に、終了後にはインクルシブな舞台制作に取り組む団体と文化芸術関係者の交流の場をつくります。

登壇者（予定）：

栗栖良依（SLOW LABEL ディレクター）

柴田翔平（Stopgap Dance Company プロデューサー）

菅野薫（株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo グループ・クリエイティブ・ディレクター／クリエイティブ・テクノロジスト）

鈴木京子（国際障害者交流センター ビッグ・アイ 事業プロデューサー）

開催概要

SLOW MOVEMENT Next Stage! ショーケース&フォーラム

日時：2017年2月12日（日） 14:00～17:30 予定（終了後 交流会あり）

会場：スパイラルホール（東京都港区南青山5-6-23 スパイラル3F）

観覧料：無料

※ 要申込。応募者多数の場合は抽選。1月31日申込〆切、結果通知2月3日

ウェブサイトのフォーム（<http://www.slowlabel.info/join-form/>）またはFAXで受付します。

FAX申込：045-345-4957 下記ご記載ください。

希望の観覧日付/申込代表者氏名/参加人数/ご連絡先（電話、FAX、あればメール）

ご連絡事項（応募動機などあれば。障害がある方など、サポートが必要な場合もご記載ください）

主催：スロームーブメント実行委員会（スパイラル／株式会社ワコールアートセンター、特定非営利活動法人スローレーベル）

共催：港区 ＜平成 28 年度港区文化プログラム連携事業＞

助成：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

協力：国際障害者交流センター ビッグ・アイ

SLOW MOVEMENT とは

「SLOW MOVEMENT」とは、＜多様性と調和＞のメッセージを街中に広めていくことをめざし、総合演出・栗栖良依のもと、様々な分野のアーティストと、年齢、性別、国籍、障害の有無を越えた多様な市民が協働して創作する市民参加型パフォーマンスプロジェクトです。2015年に活動をスタートし、スパイラル、国連大学前広場、豊洲公園、象の鼻テラスにて『The Eternal Symphony 1st mov.（第一楽章）』を発表。その後、東京、静岡、大阪、長野など日本各地でワークショップやミニパフォーマンスを重ねたのち、2016年10月には六本木アートナイトにてスペシャルバージョンを発表して話題となりました。また、作品制作や発表を通して、障害のあるパフォーマーの発掘・育成、アカンパニストやアクセスコーディネーターといった障害のあるパフォーマーのサポートをする人材の育成も行なっています。

総合演出 ディレクタープロフィール



Photo: Masaya Tanaka

栗栖良依 くりす・よしえ (SLOW LABEL ディレクター)

1977 年東京都生まれ。7 歳より創作ダンスを始める。高校生の時にリレハンメルオリンピックの開会式に感銘を受け、卒業後は東京造形大学に進学。在学中から大手イベント会社に所属し、スポーツの国際大会や各種文化イベントで運営や舞台制作の実務を学び、長野五輪では選手村内の式典交流班として運営に携わる。2006~07 年、イタリアのドムスアカデミーに留学、ビジネスデザイン修士号取得。帰国後、東京とミラノを拠点に世界各地を旅しながら、各分野の専門家や地域を繋げ、商品やイベント、市民参加型エンターテインメント作品のプロデュースを手掛ける。10 年、骨肉腫を発病し右下肢機能全廃。翌年、右脚に障害を抱えながら社会復帰を果たし、国内外で活躍するアーティストと障害者を繋げた市民参加型ものづくり「スローレーベル」を設立。14 年「ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014」総合ディレクターを務め、日本のコ・クリエイションアワード ベストケーススタディ賞受賞 (インフォバーン、電通)。2016 年、第 65 回横浜文化賞「文化・芸術奨励賞」受賞、LOVE TOKYO AWARDS 2016 にて「Face of Tokyo」に選出。

ショーケースクリエイタープロフィール

1. 「Wonder of View」多様な体が織りなす現代サーカス



<演出>金井ケイスケ かない・けいすけ (サーカスアーティスト)

中学在学中に新宿で大道芸を始める。97 年文化庁国内研修員として能を学んだ後、99 年文化庁海外派遣研修員として、日本人で初めてフランス国立サーカス大 (CNAC) へ留学。卒業後フィリップ・デュクフレ演出のサーカス『CYRK13』で 2 年間のヨーロッパツアー。その後、フランス現代サーカスカンパニー「OKIHAIKUDAN」をセバスチャン・ドルトと立ち上げ、ヨーロッパ 7 カ国を巡演し、リバイバル公演など 150 公演以上。フランス外務省派遣カンパニーとして、中東、アフリカ 25 カ国で公演、劇場文化の無い都市、紛争地域で人種や宗教を超えたワークショップや発表を行う。2009 年帰国。パフォーマンスグループ「くるくるシルク DX」参加。札幌芸術の森、越後妻有アートトリエンナーレ、横浜 Bankart、茨城・アーカス他、国内外のフェスティバルに出演。

<主なキャスト>

大前光市 おおまえ・こういち (義足のダンサー)

交通事故で左足を失ったプロダンサー。

バレエやコンテンポラリーを得意とし、日本各地の舞台のほか、ブラハやタリンなど海外の歴史ある舞台で活躍する。古典作品においては、左足に目立たない義足を装着。鍛え抜いた身体能力で、観る人に義足を感じさせない。オリジナル作品では、長短様々な義足を使うことで、表現の幅を広げる。国内有数のコンクールで、受賞歴多数。特に表現力において、高い評価を得ている。ロシアの名門、ポリショイバレエでプリンシパルを育てる世界最高峰の教師アレクサンドル・ヴェトロフ氏は“感情表現に長けた素晴らしいダンサー”と称える。テレビや新聞などメディアへの出演も多く、日本でいま最も注目度の高いダンサーの一人。

かんばらけんた かんばら・けんた (車椅子パフォーマー)

「二分脊椎症」という障害を持って生まれ、システムエンジニアとして働く。2015 年、SLOW LABEL『スロームーブメント』に車椅子ダンサーとして出演したことをきっかけに表現活動を始め、現在は「Integrated Dance Company 響 Kyo」にも所属し、活動の幅を広げている。車椅子の上で逆立ちなどアクロバティックな演技が特徴。

森田かずよ もりた・かずよ (義足の女優・ダンサー)

二分脊椎症・先天性奇形・側湾症を持って生まれる。高校生の時に観たミュージカルがきっかけで、18歳より芝居を始める。「Performance For All People.CONVEY」主宰。循環プロジェクト『≡2(にあいこーるのじじょう)』(2008年)奈良障害者芸術祭 HAPPY SPOT 奈良「鹿の劇場 〜からだの発見〜」ソロダンス「アルクアシタ」(2012年)/ニットキャップシアター第33回公演『小年王マヨワ』(2013年)/ヨコハマ・パラトリエンナーレ(2014年)/ファウストの恋人(2015年)/庭劇団ペニノ「タニノとドワーフ達によるカントールに捧げるオマージュ」(2015年)他多数。第11回北九州&アジア全国洋舞コンクール バリアフリー部門チャレンジャー賞、DANCE COMPLEX vol11 芸術創造館・館長賞受賞。

吉田亜希 よしだ・あき (エアリアルダンサー)

幼少期から体操競技を始め大学卒業後テーマパークにてアクロバット&フライングショーに出演。所属中ダンスに興味を持ちバレエ、コンテンポラリーダンス、ストリートダンス等の身体表現を学び、同時に空中パフォーマンスと出会う。近年、米英国で、エアリアルの修行にはげみ、現在エアリアルティッシュを中心にフリーランスでサーカス枠にとられない空中の自由な表現を模索中。

2.「聞こえなくても、聞こえても『ダンス劇』」



<演出>熊谷拓明 くまがい・ひろあき (ダンス劇作家、ダンサー)

ジャズダンス、バレエ、タップ、コンテンポラリーなどを学び、スタジオインストラクターとして数々の舞台、イベントに出演。その後、アーティストのサポートダンサーやバレエダンサーへの振付、演出など活動の場を広げる。

2008年、シルクドソレイユの新作クリエイションに参加するためモンテリオールへ渡った後、ラスベガスにて2年間で800ステージに出演。2010年帰国、自ら演出、振付する作品をダンス劇と呼び、独特なゆるいセリフと、しなやかな動きで物語を繰り広げる作品を数多く発表。

Photo: 大洞博靖

<キャスト>

鹿子澤拳 かのこざわ・けん (ダンサー)

1995年生まれ。先天性の聴覚障害がある。幼い頃よりダンスを好む。筑波技術大学ダンスサークル「Soul Impression」に所属し本格的にストリートダンスを学ぶ。2015年、近畿大学舞台芸術学科との合同公演 BiG-i ART FESTIVAL 2015「HALO 〜踊りだす色〜」でコンテンポラリーダンスに初挑戦。2016年夏 単身渡米し NY・Broadway Dance Center(BDC)にて様々なジャンルのダンスを学ぶ。2016年11月 昨年に引き続き、BiG-i ART FESTIVAL 2016「BEAT 見えたよ きみの音」に出演、構成を担当。大学卒業後は本格的に表現活動を開始する。

南雲麻衣 なぐも・まい (ダンサー)

1989年生まれ。聾者。5歳からモダンダンスを始め、和光大学で創作ダンスを学ぶ。風の市プロデュースと齋藤徹で遠野物語を題材にした台詞なしのコンテンポラリー舞踊「牡丹と馬」を挑む。以後、ピナ・バウシュ舞踊団の元ダンサー、ジャン・サスポータスと「聴くこと・待つこと・信じること」で共演、2013年小野寺修二(カンパニーデラシネラ)の「鑑賞者」に参加。学生時代まで人工内耳を装着して踊っていたが、音による不自由さを感じ、装着するのをやめた。以後、聴覚以外の感覚を使って踊るスタイルを突き通している。

フォーラム登壇者プロフィール

柴田翔平 しばた・しょうへい (Stopgap Dance Company プロデューサー)

95年に渡英し、05年 London School Economics 卒業。アーツカウンシルイングランド東南局長の秘書を務めた後、08年 Stopgap Dance Company のプロデューサーに就任。障害の有／無のプロダンサーが出演する世界的レベルの作品とその海外ツアーを多く手がける他、インクルーシブなダンサー育成プログラムでも高い評価を得ている。

菅野薫 すがの・かおる (株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo グループ・クリエイティブ・ディレクター／クリエイティブ・テクノロジスト)

2002年電通入社。テクノロジーと表現を専門に幅広い業務に従事。本田技研工業インターナビ「Sound of Honda / Ayrton Senna 1989」、Apple Appstore の2013年ベストアプリ「RoadMovies」、東京オリンピック招致最終プレゼン「太田雄貴 Fencing Visualized」、国立競技場56年の歴史の最後の15分間企画演出、等々活動は多岐に渡る。JAAA クリエイター・オブ・ザ・イヤー (2014年) / カンヌライオンズチタニウム部門 グランプリ / D&AD Black Pencil / / 文化庁メディア芸術祭 大賞 / Prix Ars Electronica 栄誉賞など、国内外の広告、デザイン、アート様々な領域で受賞多数。

鈴木京子 すずき・きょうこ (国際障害者交流センター ビッグ・アイ 事業プロデューサー)

1997年よりフリーランスで舞台・イベントの仕事に携わったのち、1999年に企画制作会社『リアライズ』を設立。2001年より『国際障害者交流センター ビッグ・アイ』の事業企画に携わる。ビッグ・アイの仕事をきっかけに障害の有無にかかわらず誰もが舞台芸術に表現者や鑑賞者として参加できる舞台の企画、制作をおこなう。厚生労働省 障害者の芸術文化活動支援 モデル事業 審査委員。

厚生労働省・文化庁 2020年東京オリパラ競技大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員。
著書「インクルーシブ シアターを目指して／障害者差別解消法で劇場はどうかわるか」(ピレージプレス)

関連イベント

SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony- 2nd mov.

The Eternal Symphony 第二楽章、舞台は「大地」へ！三角みづ紀が書きおろす前作の続きとなる詩を元に、新たな物語を紡ぎだしていきます。今回、演出・振付を手がけるのは、ダンスのみならず、演劇、映画、テレビなど幅広い媒体での表現活動に積極的に参加している森山開次。2016年8月の選考会で選ばれた市民パフォーマーと共に創作に挑みます。

総合演出：栗栖良依 (SLOW LABEL)

演出・振付：森山開次

参加クリエイター：石原桃子、井上唯、武田久美子、坂東美佳、藤原一毅、三角みづ紀、望月茂徳 (立命館大学)、ルフトワーク 他

日時：2017年2月11日 (土) 開場14:00 開演14:30

会場：新豊洲Brilliaランニングスタジアム (東京都江東区豊洲6-4-2)

観覧料：無料

※ 要申込。応募者多数の場合は抽選。1/31〆切、2/3結果通知。申込方法は2/12イベントと同様。

主催：スロームーブメント実行委員会 (特定非営利活動法人スローレーベル、スパイラル／株式会社ワコールアートセンター)

特別協力：ヤマハ株式会社、ヤマハ発動機株式会社

協力：アトリエコーナス、江東区青少年対策豊洲地区委員会、江東区立第二辰巳小学校、江東区立豊洲西小学校、東京ガス用地開発株式会社、ラック産業株式会社、株式会社ワコール

助成：アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団)